

東和地域支援室通信

令和4年9月号



東和総合支所地域振興課地域支援室：東和町土沢8区60 電話 41-6514(直通)

花巻市民芸術祭【東和会場】展示部門開催のお知らせ

東和地域の芸術・文化団体及び個人が作成した作品を展示します。また、「未来に羽ばたく東和のこども作品展」として、東和地域の保育園・幼稚園児童作品、小・中学校児童生徒作品を展示します。

日時 10月1日(土) 午前9時～午後5時、10月2日(日) 午後9時～午後4時
会場 東和体育館



第1回歴史学習バスツアーを 開催しました

8月23日(火)、東和の歴史と文化財を学ぶ会の協力のもと、第1回歴史学習として浮田・毒沢・中内地区を巡るバスツアーを開催し、石碑やお堂を巡りながら地域の民間信仰について学びました。



第1回女性学級を 開催しました

8月30日(火) マーブルアートマイスターの菊池美枝子さんを講師に招き、ビー玉とワイヤーでオリジナルリースを手作りしました。完成した作品は花巻市民芸術祭に出展を予定しています。



🏠移住・定住ミニ情報🏠

❀県外からの移住者や若者を対象とした空き家取得・改修の支援を拡充します
花巻市では、空き家バンクを利用して住宅を取得し、改修する場合、「若者世代の方(39歳以下の方)」への補助金を最大40万円としました。

また、若者世代等空き家取得奨励金(30万円)は、県外から移住された方も対象とし、さらに子育て世帯加算(18歳未満の子どもと同居する世帯)を対象として、空き家を取得のうえ、その空き家の改修を行った世帯には20万円加算されます。

いずれも、令和4年4月1日から遡って対象となります。詳しい内容は広報9月1日号をご覧ください、または下記へお問い合わせください。

【問合せ】

☎花巻市役所定住推進課定住推進係 41-3516

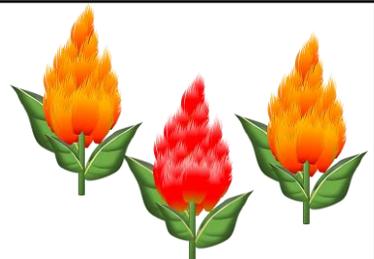
☎東和地域

受付場所：東和町土沢5区372番地 東和おもしろ作戦研究所内

TEL：29-6500 FAX：29-6501 Eメール：omoshiro@leaf.ocn.ne.jp

受付時間：月～金 9：00～12：00 担当：菅野 大石

そのほかの時間帯は留守番電話に入れていただければ折り返し連絡を差し上げます。





元地域おこし協力隊の岡田芳美さんによる連載企画。『イージュはなまき』はUターンの岡田さんとIターンの旦那さんが発起人となり立ち上げた移住者のためのプロジェクトです。『イージュ』は“移住”と“いい住まい”の意味。さらに奥田民生さんの「イージュ★ライダー」へのオマージュを込めているそうです。

こんにちは！イージュはなまきの岡田です。今回は東和町館迫にご実家があり、今年4月にUターンで帰ってきたばかりの多田さんにお話をお聞きしました。

☆.+☆.+☆★インタビュー 第3弾 多田 訓広（くにひろ）さん ★☆.+☆.+☆

▼これまでの経緯とUターンのきっかけ...

高校卒業後、仙台の専門学校へ。その後、東京のIT企業で仕事をしていました。兄妹は4人ですが全員県外。両親が高齢になってきたこともあり、そろそろ地元に戻ることも考えていました。仕事さえあれば、と思っていたんです。そんな時、先にUターンしていた友人が、花巻市地域おこし協力隊の募集について教えてくれたことが直接のきっかけとなりました。

▼平日はリモートワーク／休日はアウトドア...

協力隊に応募しようと退職を申し出たところ、上司が引き留めてくださり、仕事を変えずにUターンが実現しました。実家で暮らしながら、東京の仕事をフルリモートで行っています。休日の楽しみは、山登りやキャンプなどです。最近では友人と一緒に、住田町の種山ヶ原（物見山）や、県外ですが田沢湖にも行ってきました！

▼これから...

戻ってきて4、5ヶ月。やっと草刈り機の使い方も覚えました（笑）もともとは畑だった土地で今は全く手をつけていないところなんかもあって...有効活用できたらと模索中です！

実は、多田さんは、以前から年2～4回ほど帰省していたそう！結構な頻度だと思いますが、聞くと「やっぱり（地元が）好きだからかなあ」と話してくれました。多田さんのこれからをお楽しみに♪

イージュはなまきWEBでは多田さんのインタビュー全文が読みいただけますのでぜひご覧ください→



種山ヶ原（物見山）にて



東和の生き物12か月

野鳥(サシバ)の研究で修士課程を修了した地域支援室 糸川拓真主査が東和地域で観察できる生き物について解説します。

9月 同じ穴の...「アナグマ」

東和の町も9月に入り、残暑はあるものの厳しい夏の盛りはひと段落したように思います。稲穂も色づき始め、実りの秋が近づいてきました。東和の動物達にとっては、冬に向けて蓄える時期が始まりました。今回は、東和に住み、たまに側溝の中を歩く姿を見かける動物、アナグマの紹介をさせて頂こうと思います。

アナグマは、全長約40cm～60cm、中型犬くらいの大きさのイタチの仲間になります。ずんぐりとした体形と茶色い体色、目の周りの黒い模様などタヌキととても似た部分があり、昔から、アナグマ（イタチ科）、タヌキ（イヌ科）、ハクビシン（ジャコウネコ科）を合わせて「むじな」と呼称され、種類は違いますが良く混同されてきました。それが原因で、大正時代「たぬき・むじな事件」という裁判沙汰にまで発展したこともあります。しかし、アナグマは、タヌキと比べ細長い顔立ちや、5本の良く発達した指など、タヌキには無い特徴を持っています。食性は雑食性で、植物の種子なども食べますが、土を掘り土中のミミズや昆虫も捕食します。巣の中や周りにため糞場を作ることもアナグマの特徴の一つです。

その名前の通り、アナグマは穴を掘ることが得意で、土を巧みに掘り巣穴を作ります。「セット」とも呼ばれる巣穴は何世代も使われると、内部は100mを越し、複数の出入り口がある大規模のものになります。秋は、アナグマの繁殖も一段落し、子離れに入りますが、娘が1体残り、次のシーズン母の子育てを手伝い訓練することが調査などで知られています。アナグマによって作られた巣穴は、アナグマだけでなくタヌキやネズミ、アライグマなど実に様々な動物が生活に活用する事が知られており、共同生活する姿から、ことわざの「同じ穴のむじな」の由来となったとされています。

ことわざの意味はあまり良いものではありませんが、アナグマの掘りあげた巣穴が、大事な住処となり、東和に暮らす様々な動物の助けとなっている事は間違いないようです。



絵：地域支援室伊藤